

公式記録

平成19年度兵庫県高等学校サッカー選手権大会 決勝 【39】

主審署名 辺見 康裕

日時 2007年11月11日(日) 13:05 キックオフ 会場 神戸ウイングスタジアム

天候 晴れ 風 弱風 ピッチ 芝・クレー 状態 良好・不良・泥沼 試合形式 80分/延長20分 PK戦有

会場主任 堀口 泰司 記録 岡本 進司 / 茨木 伸之 観衆 2,000人

主審 辺見 康裕 副審1 大前 毅 副審2 鶴野 敬二郎 第4の審判員 鍵野 剛一

チーム名	kick off	1	前半	0	チーム名	kick off
科学技術高校	先	2	1	後半	0	先
			延前	市立尼崎高校		
			延後			
			PK戦			
背番号	背番号					
○×	○×					

交代	シュート					得点	選手名 (学年)	番号	位置	位置	番号	選手名 (学年)	得点	シュート				交代
	No.	OUT時間	延後	延前	後半									前半	前半	後半	延前	
							金本 幸平 3年	1	GK	GK	1	伊藤 聖 3年						分
					1		長田 武士 3年	2	DF	DF	3	内藤 壮祐 3年						分
							朴 斗翼 2年	3	DF	DF	4	岡本 友基 3年						79分
							古結 義朗 3年	5	DF	DF	6	門 秀彰 3年			1			分
							下田 尚平 2年	17	DF	DF	6	藤原 武史 3年						65分
				1	2	1	福原 博文 3年	7	MF	MF	14	末廣 昌史 3年						69分
				1			増井 直樹 3年	8	MF	MF	24	山角 裕介 3年		2				分
				2			和定 修平 2年	13	MF	MF	21	青山 司 3年						分
							酒見 成紀 2年	19	MF	MF	22	田平 夢宇夜 3年		1	1			分
				2	2	1	須ノ又 諭 3年	10	FW	FW	9	下山 尚紀 3年						62分
60分				1	2		西堀 哲也 2年	11	FW	FW	18	永川 卓弥 3年			1			分
							小林 新 3年	12	GK	GK	12	井上 友彰 2年						分
							比翼 太希 3年	15	DF	FW	2	岩間 太希 3年			1			分 9
							津田 敬昌 3年	21	MF	DF	7	石上 弥真人 3年						分 14
							石井 晶士 3年	6	MF	DF	8	野村 拓未 3年						分 4
							鬼塚 兼輔 3年	16	FW	MF	11	松沢 良 3年						分 6
							呉島 堂真 1年	20	MF	MF	10	湯田 逸友 3年						分
							吉田 雄太 3年	9	MF	DF	16	辻田 真吾 2年						分
							鷺尾 康介 1年	18	FW	FW	17	奥村 真人 2年						分
11分							伊佐 耕平 1年	24	FW	MF	19	杉山 雄亮 2年						分

時間	警・退	No.	氏名	事由	鈴木 利章	監督	泰中 三郎	時間	警・退	No.	氏名	事由		
72分	警告	9	吉田 雄太	反ス	合計	延後 延前 後半 前半	チーム合計	前半 後半 延前 延後	合計	72分	警告	24	山角 裕介	反ス
					14	7 7	シュート	3 5	8					
					8	4 4	GK	4 5	9					
					3	1 2	CK	0 3	3					
					10	6 4	直接FK	7 6	13					
					4	2 2	間接FK	0 5	5					
					4	2 2	(加付)	0 5	5					
					1	1 0	PK	0 0	0					

得点経過	時間	チーム	No.	得点者	スコア	[得点経過]	略号例: ドリブル~・ゴロのパス→・浮き球○・混戦×・ヘディングH・シュートS
	4分	科学技術	7	福原 博文	1-0	中央 FK	⑦ S
72分	科学技術	10	須ノ又 諭	2-0	PK	⑩ S	
分					-		
分					-		
分					-		
分					-		
分					-		
分					-		

戦評者 所属【 県立龍野高校 】 氏名【 笠原 弘樹 】

最高のピッチコンディションの中、科学技術高校・市立尼崎高校ともに4-4-2の布陣でスタートした。立ち上がり4分、ゴール前のフリーキックを科学技術高校の7番福原が、ゴールキーパーの逆をつき先制ゴールを決めた。科学技術高校は10番須ノ又を中心に、ボールをつなぎながらサイドのスペースを再三突破しゲームを支配した。後半に入り、市立尼崎高校は前線からプレッシャーをかけボールを奪い、ショートパスやドリブルで攻勢を仕掛け持ち味を發揮しゲームを支配した。しかし、科学技術高校の粘り強い守りに、ゴールを奪うことができない。さらに、市立尼崎高校はスピードのある選手を次々に送り込み、攻撃に厚みを持たせたが、科学技術高校はゴールキーパー金本を中心にゴールを割らせなかった。72分科学技術高校は一瞬の隙を突きカウンター攻撃からハンドを誘い、PKを10番須ノ又がきっちりとゴールを決め、粘る市立尼崎高校を突き放した。両チームともに、持ち味を發揮した決勝戦にふさわしい好ゲームであった。

【備考】